

<p>経済・経営</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p>
<p><b>keyword</b></p>	<p>□ <b>ドイツ地域経済の歴史的形成と特質</b> □ <b>戦後ドイツ経済と金融構造の関係</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 戦後ドイツ</li> <li>■ 貯蓄銀行</li> <li>■ 地域経済</li> <li>■ 戦時経済</li> <li>■ 社会経済史</li> <li>■ 産業革命</li> </ul>	<p><b>課題解決に役立つシーズの説明</b></p>
 <p><b>三ツ石 郁夫</b> Ikuo Mitsuishi</p>	<p>戦後西ドイツの経済成長を支えた要因として、経済秩序としての「社会的市場経済」、企業経営のガバナンス、質の高い熟練労働力と技術力などがあげられますが、さらに銀行3類型を中心とする信用構造も重要です。私の現在の研究テーマは、戦後ドイツの金融機関のあり方と競争政策、産業発展に果たした金融の役割、とくに貯蓄銀行の特質についてです。</p>
<p>経済学部 教授</p>	<p>ドイツの銀行には、ドイチェ・バンクやコメルツ・バンクのような戦前からの系譜をもつ民間大銀行と、日本の信用金庫や農協に似た協同組合銀行、そして戦前の日本にも一時期存在した貯蓄銀行の3類型が存続しています。そのなかで、貯蓄銀行は歴史的な系譜をたどると、もとは自治体のなかで社会政策を担う一部門として設立され、戦後に至って公益性の性格を残して独立した地域分散的な金融機関です。主に自治体住民の預金を集めて、それを地域内での住宅建設やインフラ整備、自治体信用、そして地域に立地する中小企業・中間層企業に長期で貸し付けています。最近の研究テーマは、こうした地域に根付いた金融機関のあり方とそれに支えられて発展したドイツの戦後成長の軌跡、そしてその特質をなす地域経済構造に注目して研究を進めています。</p>
<p>【プロフィール】</p> <p>●略歴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都立大学大学院 社会科学研究所</li> <li>・ドイツ・ハイデルベルク大学 社会経済史研究所</li> </ul>	<p>これまで西南ドイツ・シュトゥットガルト市を州都とするバーデン・ヴュルテンベルク州を中心に地域経済形成史を研究してきたのですが、最近ではドイツ中西部のノルトライン・ヴァストファーレン州ビーレフェルト貯蓄銀行を調査して、戦前から戦後にかけての地域経済の構造変化のあり方と金融との関係を研究しています(下の写真は、2014年8月に調査に訪れたビーレフェルト貯蓄銀行本店建物)。こうした研究をもとに、ドイツと日本の地域経済の比較を念頭に置きながら、時間と空間を分析軸として比較史的に社会と経済の制度的枠組みを見出そうと考えています。そこから生まれた研究(成果)を学生や市民社会との対話を通じてより通用力のあるものに鍛えていくことが大学人の役割であると思います。</p>
<p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会経済史学会評議員</li> <li>・政治経済学・経済史学会</li> <li>・日本金融学会</li> <li>・社会政策学会</li> <li>・歴史学研究会</li> <li>その他</li> </ul>	
<p>【主な著書・論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『ドイツ地域経済の史的形成』(勁草書房)</li> <li>・『西洋経済史学』(東大出版会)</li> <li>・『管理された市場経済の生成』(日本経済評論社)</li> </ul>	
<p>【最近の共同研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ナチ体制とドイツ戦時経済に関する新たな視点の経済史共同研究(日本学術振興会、2014年)</li> </ul>	<p>ドイツ中西部のノルトライン・ヴァストファーレン州ビーレフェルト貯蓄銀行本店</p>
<p>【連絡先】</p> <p>mitsuisi@biwako.shiga-u.ac.jp</p>	